

合格体験記 (AO方式入学者選抜)

第 Ⅱ 項 学芸 学部 メディア創造 学科

出身高校名 浜松市立 高等学校

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

Webサイトになるために、文系がメディア関係を扱う大学を探していました。一時は専門学校も検討しましたが、広い視野を身につけたいと思い、大学にしました。同志社女子大学では、4つの分野を自由に組み合わせられたカリキュラムで多様なスキルを修得できるため、そこに魅力を感じました。また、産学連携プロジェクトが多く開催されており、その中でも「同志社ロム記念館プロジェクト」に参加したいと思っています。充実した環境で、自分のやりたいことと学びの両方できる同志社女子大学に入学したいと考えました。

(2) AO方式入学者選抜を受けようと思った理由。

私は高校が放送部に所属し、制作班長や副班長を務めていました。初め頃は、書類作成や面接、プレゼンテーションがあることが不安で、一般入試のみの受験も考えました。しかし、放送部で培ってきた経験を活かし、高校生活三年間をぶつけるつもりでやってみようと思い、AO方式入学者選抜の受験を決めました。一番早い時期から、チャレンジでき、合格後のサポートを受けることができれば、迷っている受験生の方がいたら、AO方式の受験をおすすめしたいです。

(3) AO方式入学者選抜においてアピールした活動、経歴、資格等。

映像作品や音声作品を数点と、パソコン系の資格、英語の資格でエントリーしました。一次の書類審査では、それぞれの活動で経験したことや具体的な書くようにしました。二次の面接では、大きな話題をひとつ絞ってアピールしました。私が制作班長を務めたドキュメンタリーの映像作品を軸にして、経験や身につけた能力、自己課題について話しました。全国大会で3位以内に入賞した等の実績があった訳ではありません。3年間自分なりにやってきた成果に自信を持つことが重要だと思います。

(4) 出願書類作成や面接で心がけた点。

〔出願書類作成〕

志望理由書は、どうしてもここにメディアについてという想いを込めて書きました。志望理由が上辺だけのものにならないよう、最初は1シートにひたすら、想いを書きました。友達や先生に話を聞いてもらうのも、言語化する練習になり、後の面接にも活きたと思います。私の場合は8月から、本格的に書き始めましたが、完成したのは出願直前で、約8回ほど推敲しました。最終的には、4.5人のチェックを受け、細かい表現にも注意を払いました。小論文も同様に、課題文の理解から始めて、詳しい先生にアドバイスをもらいながら完成させました。

〔面接〕

メディア創造学科の面接は、プレゼンテーションの10分間が含まれています。当初は100-ポインタを使ったスタンダードなプレゼンテーションを予定していました。しかし、ここでは面接官の印象に残りにくく同時に、高校3年間の自分を表現するには面白くないと思いました。そこで、10枚以上のパネルを使ってホワイトボードに貼るながら説明するという方式に変更しました。手持ち無沙汰になると焦ってしまう私にとっては、重たさからの説明が合っていたなと思っていたので、自分が安心してできる状態に対策するのが、一番良いと思います。

(5) 選抜を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

AO方式の入試は、大学への熱量や愛、あとは高校三年間の過程が活かされて合格が決まると思います。ここはどうしても入りたい気持ちと、何か一つ、一ついいの自分強みだと言えぬものを持ってチャレンジしてみてください！もし落ちても一般で絶対受かっておせし、でもどうなる前にここを受かっておせし！という気持ちで私は受験しました。みなさんと集合サポート学習の日にお会いできるのを楽しみにしています。頑張ってください！！